
蓬萊町だより

第八十五号

平成 26 年 7 月 25 日

発行 蓬萊町会

町内探訪 (11)

勝林寺のこと 終稿

本城康至

当寺の檀家総代の方による「萬年山勝林寺の沿革概要」(平成五年)の記述に、天正十九年(一五九一)に「しよりん寺」が我が町域に移転してきたとあり、前号までの私の「しよりん寺」もの語りは、その検討と傍証に焦点を当ててきました。

残る課題は、お寺の栞「萬年山勝林寺」平成七年の中の文政九年(一八二六)の寺社書上による歴史記述の解釈をどうするかです。このため、別表を作成し、私の見解をもの語ることに致します。

「しよりん寺」の寺名の歴史

別表は、日本史年表に沿革概要の記録を落とし、それにお寺の栞にある寺社書上などの記録上対応するものを併記した形で作成しま

した。沿革概要の欄には関連する文献情報も加えました。

表を一覧すると、過去七〇〇年「しよりん寺」と呼ばれつづけた中で、諸宗諸本山法度発令の年に突然「嵩呼山心宗寺」という寺が湯島に現われ、三十四年後に「萬年山心宗寺」に改名し、百九年後に「萬年山勝林寺」となっているのは何故かと誰しも思う。

沿革概要はこの頃の勝林寺のおかれていた事情を次ぎのように説明している。

「家康は天正元年いわゆる寺院諸法度を定め中世寺院の世俗的勢力の拡大防止政策を展開、本寺末寺制度を確立し、本山を押さえることにより宗派全体を幕府の統制下におき、二年前の慶長十八年に定めた勅許紫衣・諸寺入院の法度と併せ朝廷の僧官・僧位の授与権限を抑制する。殊に朝廷の帰依寺であった大徳寺・妙心寺の住職になるには勅許以前に幕府の承認を要するとの新条件を課すに至り、これが十三年後の寛永六年、法度違反の故を以って沢庵禪師以下の大徳・妙心両寺の高僧四人を流罪に処し、これに憤激された後水尾天皇の譲位を惹起した世に言う紫衣事件につながる。

この頃、家康江戸入府以来勝林寺支配で大檀越であった松平忠吉は慶長十二年二十八才で死去、無嗣断絶して同家は既になく、きびしく妙心寺法度に仕組まれた勝林寺も禅堂(禅僧の修行道場と士大夫、地方武家官僚

養成機関的存在)から檀家と墓地を持ち葬祭を行う一般寺院に移行して存続を囿らざるを得なくなる。」と。

以上は表の一五九〇年から一六二九年までのことである。

では何故「心宗寺」だったかについて私見を述べてみましょう。

「心宗」の語源は、臨濟宗では「禅門スナハチ仏心宗ナリ」と云って、「不立文字」の立場から他宗のことを「仏語宗」と称し、「禅宗トハ心ノ名ナリ」をあらわす意味で「仏心宗」を標榜しているところにあります。

妙心寺法度に仕組まれた勝林寺の時の住職渭川周瀏(妙心寺百十九世?)は僧傑と言われた人だったようですから、弟分の了堂宗歌と図り、幕府の咎を受けないで「しよりん寺」の心を残す禅堂づくり(右記の仏心宗を用い、どの派にも属さないただの素朴な禅堂として「嵩呼山心宗寺」なる寺堂を作って仕舞った。

渭川は師である物外紹播(妙心寺百十八世・興禅寺中興開山・曾って勝林寺住職)から、太田道灌が崇呼山少林寺を再建した時の二寺を以って一山とした故事を聞いていた。江戸に來た幕府の役人達はその昔「心宋寺」が城内にあったことなど誰も知らなかった。表中の中川と了堂の名前が異なるが同一人物である。

言ってみれば、表の一六一五年の心宗寺と

一六一七年の勝林寺は「宗」の心では二寺を以って「しよりん寺」でした。

これを裏づけているのが、表の一六四七年六世開林の「登ス湯島心宗寺ニ、後ニ引キテ地を駒込ニ云フ少林寺也」である。文中の「引キ」の語意は表面にあつたものが裏面に退くであり、心宗寺が「勝林寺」の仮の姿であつたことを示唆しています。

そして、二年後に心宗寺は萬年山少林寺に改名したとなっているが、一六五七年の明暦の大火で消失し再建されることはありませんでした。

このあと、表に見られるように沿革概要では勝林寺は二度の火災にあつていて、この点は「本郷の寺院」にある町内のお寺の火災記録と符合します。

寺社書上の萬年山少林寺へ改名した頃になると、幕府の宗教政策は「宗」の取締りから寺院の行政的活用へ、例えば「寺請け制度」など寺を民政の手段として利用するようになってきます。

兎に角、一七二三年松平乗邑が老中となつた翌年寺社書上に萬年山勝林寺と改名したとの記録が残り、嵩呼山心宗寺は「禅堂としての隠れ勝林寺」でありました。

明治から昭和初期の勝林寺

明治元年（一八六八）太政官政府は神祇官を設置し、神仏分離令を發布した。これが廃

仏毀釈へと発展し、菩提寺の取り壊しや僧侶の還俗の強制が各地で起こった。しかし、仏教教団等からの反発で頓挫し、神祇官制は明治五年に廃止される。

この時は町のお寺も夫々に受難の時でしたが、勝林寺は太政官通達にもとづいて寺の由来文書を提出させられた。

この文書が基本となつて、文京区史では勝林寺の歴史を記述したようです。この記述は蓬萊町だより第八十二号三頁に書きました。

そして、この由来文書のもと、文政九年（一八二六）に勝林寺が幕府に提出した寺社書上であつたわけです。

この由来文書の作者は、旗本三千石中西図書頭家人の初代井川石五郎氏（時の檀家総代）でした。

彼は勝林寺が花園法星を開基とする本山妙心寺別格地相当の寺格をもつなどとは書けなかった。彼にはこの時沿革概要にある「しよりん寺」の歴史認識はなかったと思います。

道灌が二寺をもつて一山とした趣向は姿形を変え、元和元年に嵩呼山心宗寺を生み、明治元年の難局時にもその名は勝林寺を救いました。

さて、江戸は東京と改称され、明治四年には廃藩置県、明治六年には徴兵令が公布され国軍が創設される。テレビの「坂の上の雲」で改めて世に知られた秋山好古は、明治十年

に陸軍士官学校騎兵科に入學、全十五年には陸軍大学の第一期生となっている。

この頃勝林寺住職は十四世明龜和尚で、井川石五郎氏は神田代町に在住していたが、全十五年勝林寺裏の駒込蓬萊町五番地において、馬具革具の製造販売業を創立した。

明治十一年の東京全図によれば、神田橋から一ツ橋の間本丸跡との間には軍馬局があり、ここは明治四十五年には近衛騎兵連隊となつている。

経緯は不詳ですが、彼は時代の動向を的確に把握していました。

お寺の明龜和尚は明治十八年に亡くなり、あとは全三十五年まで台同和尚が住職を務めます。そして全三十六年以降昭和五年まで二代目町会長をされた十六世允宗和尚と窪田智膺氏の代になります。

この間、日清・日露戦争の時は関係する軍需品製作で事業の伸長は著しかった。しかし、初代井川石五郎氏は明治四十年に亡くなられ、二代目井川石五郎氏の代となる。二代目は若くして事業を継ぎ大正五年には組織を合資会社井川商会と改め代表となる。

日露戦争の頃、東京には近衛師団と第一師団があり、夫々には三騎兵連隊をもつていたが、近衛騎兵連隊だけが在京し他は習志野にあった。井川家はこの近衛騎兵連隊と深い関係があつたのであろうか、井川商会設立の年に宮内庁主馬僚の御用を拝し、御料乗馬具・

御料馬車鞭具の調整を命じられるようになった。

この実績があつて、昭和三年昭和天皇御大礼に際し、御用品御料儀装束六頭輓騎馱式鞭具を始め付属品の調整の御用命を拝するところとなった。

このことは現在では考えられない程の名誉なこと、当時の蓬萊町民の喜びは大変なものであつたでしょう。恐らくこれも記念して窪田町会長の発想で、今の御輿が造られる話となつたと想像しています。

蓬萊町だより第六号で林順信さんは次のように書いている。

蓬萊町の町会御輿は、戦前は、現在ある大人御輿と、町内の鍛冶屋の福島さんの手造りの小人御輿があつた。大人御輿は、昭和三年今生天皇御大典の年に、蓬萊町の南の地区の人たちによって新調されたものと伝えられるもので、従つて、台帳には「有志」という文字が刻まれている。・・・と。

以下には我等が二代目町会長勝林寺住職の允宗和尚について述べあわせて当時の勝林寺の様子を書き止めます。

彼は愛知県一宮の人で横井姓であつたが、川越城主松平家の菩提寺平林寺（埼玉県）の住職窪田蘭溪氏のもとで修行し、師の姓をさづかり窪田智膺氏と改名、若くして勝林寺の住職となつた。そして歴代住職で最初の妻帯者でもあつた。

師は大正デモクラシイと呼ばれた時代を中心に幅広く現世に生きる人々と交流した。

日露戦争のあとには千駄木小学校の設立尽力され、学校は明治四十三年開校の運びとなる。また、この頃から大正にかけ横山大観、河鍋曉斎や近所に住んでいた高村光雲などが寺を訪れ、寺は文人墨客のサロンのようなあつたという。大観は当時から狭く、大作を画く時は寺の広い奥座敷を使つていたとか。

また、「原始、女性は大陽であつた」で有名な平塚らいてうも、明治四十五年から大正二年にかけて寺に事務所「萬年山青鞈社」をおいて、日本初の女性による文芸誌「青鞈」の編集をやつていた。

師が本山妙心寺の財務部長をされていたとは前にも書きましたが、平林寺でも修行中に勝林寺の文政寺社書上に疑問を持たれていたと思います。これが久猶和尚の遺言による平成五年の檀家総代の方による寺史研究につながつたものと考えられます。

久猶和尚は前代同様東洋大学や法政大学の学生寮を開き、座禅会などをやつておられたとか。しかし、昭和十六年に勝林寺は染井へ移転するところとなつた。

おわりに

二年半にわたり私の拙い「しよりん寺」もの語りに目を通していただき感謝します。大変苦労しましたが、書き終えて町会長は

やっと終わったと思つています。

町内探訪という編集長のねらいにどれだけ沿えたかわかりませんが、まあまあ形になったと思つています。

調べたことで何か大切なことを書き落としていたような気もしますが、筆を置きます。終わりに、自由勝手に寺史を書くのを認めて下さつた現ご住職知良和尚様に厚く御礼申し上げます。



半夏生（はんげしょう）

別表	勝林寺 寺名変遷の歴史		(注) []内は場所
年代	沿革概要 他	お寺の乗(寺社書上)	
1300年代初頭	崇呼山 少林寺 <small>[神田山]</small>		
	開山 南浦紹明		
長録1年(1457)	崇呼山 少林寺 <small>[神田山]</small> 心宋寺(山号なし) <small>[江戸城内]</small>		
	中興開山 雪江宗深 開山 悟溪宗頓		
	太田道灌再建 上記二寺を以って崇呼山少林寺とした		
大永4年(1524)	崇呼山正林寺 <small>[神田山]</small>		
	北条氏綱 寺名を改める 開山は不明 心宋寺の記録なし		
天正18年(1590)	家康 江戸城に入る		
天正19年(1591)	萬年山正林寺 <small>[本郷台地三つ谷に移転]</small>		
	家康の命により移転 松平忠吉、松平康重 山号を萬年山に改める		
慶長5年(1600)	萬年山勝林寺 <small>[三つ谷]</small>		
	家康関ヶ原の戦勝を記念し、勝林寺の寺名を与える		
慶長12年(1607)	松平忠吉(没)		
慶長18年(1613)	勅許紫衣・諸寺入院の法度		
元和1年(1615)	諸宗・諸本山法度	崇呼山心宗寺 <small>[湯島]</small> 開基 中川元故 開山 了堂良歌(妙心寺百二十世・禅河弘济禅師29才)	
	禁中並公家諸法度・武家諸法度		
元和2年(1616)	家康(没) お勝の方英勝院と号す		
元和3年(1617)	英勝院お福に勝林寺の後を託す		
	世話人 中川元享、住職 渭川周瀾(妙心寺百十九世?)		
寛永1年(1624)	お福 報恩山天沢寺(麟祥院)建立を發願		
寛永3年(1626)	お福 大奥総取締役「御年寄」となる		
寛永4年(1627)	中川元享(没)		
寛永5年(1628)	勝林寺隣接地に浩妙寺建つ		
寛永6年(1629)	紫衣事件・お福「春日局」の称号を賜る		
寛永7年(1630)	春日局の要請で渭川和尚 天沢寺の開山となる		
寛永8年(1631)	秀忠(没)		
寛永10年(1633)	・・・・・・・・・・	真空上人行状録に心宗寺の住職了堂良歌との記述あり	
寛永12年(1635)	寺社奉行設置・参勤交代制確立		
寛永13年(1636)	英勝院 鎌倉に東光山英勝寺(浄土宗尼寺)を創建 移り住む		
寛永19年(1642)	英勝院(没) 時の勝林寺住職は了堂宗歌(妙心寺百二十一世)禅河弘济禅師		
寛永20年(1643)	渭川和尚(没) 後に春日局(没)		
正保4年(1647)	・・・・・・・・・・	六世関林「登ス湯島心宗寺ニ、後ニ引キテ地ヲ駒込ニ云フ少林寺也」	
慶安2年(1649)	・・・・・・・・・・	萬年山少林寺 と改名	
慶安4年(1651)	家光(没)		
明暦3年(1657)	明暦の大火	少林寺消失(お寺の乗では勝林寺)	
寛文1年(1661)	・・・・・・・・・・	了堂良歌(没) 75才	
貞享3年(1686)	幕府 寺社領の朱印状4649通を頒布		
享保3年(1718)	勝林寺全焼 [三つ谷] 小日向馬場火事		
享保8年(1723)	松平乗邑老中となる		
享保9年(1724)	・・・・・・・・・・	萬年山勝林寺 と改名	
安永1年(1772)	田沼意次老中となる 勝林寺全焼[三つ谷] 目黒行人坂大火		
安永9年(1780)	----- 老中田沼意次 勝林寺中興開基となる -----		

平成25年度収支決算報告書		蓬萊町会	
自 平成25年4月1日～至 平成26年3月31日		蓬萊町会	
収入の部		支出の部	
前期繰越金		各部支出	
現金	50,000	総務部費	682,652
普通預金	2,053,779	婦人部費	87,514
町会費	1,518,600	文化部費	192,142
受取利息	273	防火防災部費	147,570
		防犯部費	62,400
		交通部費	81,216
区助成金等			
区報配布	180,800		
蓬萊町だより	25,094	盆踊り助成金	300,000
活動助成金	0		
リサイクル	79,890		
		次期繰越金	2,763,527
盆踊り会計精算金	408,585		
計	4,317,021		4,317,021
・盆踊り通帳の残高 408,585円は、全額本会計に戻し入れ致しました。			
・定期預金解約金残高(25.4.1)		1,939,093円	
常瑞寺会館補修費(25.9.11)		▲189,000円	
テント一式購入(26.3.10)		▲203,700円	
受取利息(26.2.27)		18円	
25年度末残高		¥1,546,411	
上記の通り、平成25年度決算報告を致します。			
		町会長	大畑 清心 (印)
		会計	青木 喜一 (印)
		会計	小林 晴彦 (印)
帳簿及び関連書類を照合の結果、収支決算書は正確に処理されていると認めます。			
	平成26年5月25日	会計監査	堀口 克雄 (印)
平成26年度収支予算		蓬萊町会	
自 平成26年4月1日～至 平成27年3月31日		蓬萊町会	
収入の部		支出の部	
前期繰越金		総務部費	960,000
普通貯金	2,763,527	文化部費	300,000
町会費	1,550,000	婦人部費	100,000
区助成金等	450,000	防火防災部費	160,000
		防犯部費	100,000
		交通部費	100,000
		祭礼協賛金	500,000
		予備費	2,543,527
計	4,763,527		4,763,527
別途積立金(1,546,411円)より次の防災備品等の購入を計画しておりますので予算化いたします。			
①災害用マンホールトイレ(テント付き)	1個		70,000円
②トイレ用パーソナルテント	1個		20,000円
③簡易トイレ便袋(200セット)	1個		40,000円
④テント一式	1台		150,000円
	合計		280,000円
平成26年度予算を上記の通りと致します。			
	平成26年5月25日	町会長	大畑 清心 (印)
		会計	青木 喜一 (印)
			小林 晴彦 (印)

蓬萊句壇

つぶやきを秘めたるかたち桜貝 小野島淳

桜貝耳にあてれば波の音 野出園蝸

桜貝手の平のひらにある海の詩 舟越はるき

桜貝母の面影知る浜辺 阿部泰子

桜貝昔の女の異名なり 粕谷小宵

桜貝箱根細工の小匣から 池田南北

訃報

岡田信男様 八四歳 向丘2-18-2

木部弘様 七八歳 向丘2-23-20

日色くに様 八八歳 向丘2-36-8

大畑稲子様 九九歳 向丘2-30-6

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

町会活動の概要

平成25年12月から平成26年5月まで

12/6 駒本小学校運営協議会

12/6 駒込警察振り込め詐欺キャンペーン

12/8 地区対策「ケーキづくり」駒本小学校

12/12 赤十字婦人奉仕団 50周年記念式典

12/19 歳末たすけあい募金 ¥182,100

12/28 歳末夜警

1/13 蓬萊町会新年会

1/17 文町連新年会

1/18 区立文京第六中校改築落成記念式典

1/18 駒本小学校公開講座

1/23 くすの木の郷 奉仕活動

1/27 日医大建替工事協議会

1/30 12町会連合会長 新年会

1/31 駒込警察防犯協会新年会

4/8 区立文京第六中校入学式

4/17 赤十字役員会

4/25 つつじまつり甘酒茶屋

5/12 向丘地区対総会

5/22 赤十字募金 ¥169,100

5/24 駒本小学校 運動会

5/25 蓬萊町会 定期総会

編集後記

暑い夏がやってきました。すだれによる日除けと家の風通しをよくするだけで何とか暑さをやり過ごせたのはもうずいぶん昔の話で、今ではクーラーなしでは眠れないばかりか、命を脅かす危険すらあるのが昨今の都内の暑さです。クーラーがなくなると安心して眠れるように、都や区の長期的な対策を是非お願いしたいものです。

先日聞いた話ですが、温度が28度を越えると急に熱中症にかかる人が増えるそうです。クーラーの推奨設定温度が28度なのもそこからきているのでしょうか。いずれにしても28度を越える时要注意です。不要不急の外出は控えて、できるだけ涼しい場所で過ごすのがいいようです。東京近郊で真夏にゴルフをするなどは自殺行為に等しいことかもしれません。暑さに負けず、楽しく夏を過ごしましょう。

編集委員 本城康至 坂本禎一

大熊敏幸 猪熊良一